

## 地域で異なる砂漠化の実情

高津 佳史

地球環境問題を取り上げたテレビ番組で、「年間数百万ヘクタールの土地が新たに砂漠化している」という解説があった。また、「サハラ砂漠は毎年数キロメートルも拡大している」という記述も目にすることがある。東京ドーム何個分といった例えと同じで、分かりやすいようで実はあいまいな表現が砂漠化や森林破壊の説明に使われる場面が多い。

砂漠化の実情が地域によって様々であり、一言では説明できないためこうした表現にならざるを得ないのだろう。

地球温暖化の影響とされる降水量の変化も、地域格差が拡大しており、アフリカでも、干ばつ・豪雨といった極端な気候が住民の生活を脅かしている。

国連が2022年に出した報告では、東アフリカ（ケニア、ソマリア、スーダン）では雨不足により深刻な食糧危機が発生した。その一方で、西アフリカと南アフリカでは穀物の生産は順調で過年度より数パーセントも増加したという。

マリの位置する西アフリカ・サヘル地域については、2022年の降水量は過去10年の平均値を上回った。しかし、降水量の分布図を細かく見ると、首都バマコなど南部地域に雨が多かったのに比べて、

トンブクトゥなど北部の砂漠地域の雨量は例年より減少していた。マリ国内だけを見ても温暖化による降水量の変化は一様ではないと言える。

日本のような狭い国土でも、数十年ぶりという高温、渇水、豪雨の被害報道が混在していることから明らかである。

現在、サヘル  
の森が活動しているファナ地域では、薪炭材の行き過ぎた伐採と開発に伴う森林伐採が荒廃地を生み出す主要因と考えられている。

そこで、樹林の育成者（実践者）を育てることで地域における緑の拠点づくりを進めている。同時に在来種の育成、荒廃地の再生試験なども続けている。

以前活動していたマリ中部のモプチ地域や北部のトンブクトゥ地域では、家畜の放牧による影響が極めて大きかった。ファギビンヌ湖周辺では、内戦により地域住民が村を追われたことで、結果的に植林帯が自然に拡大したこともあった。

ここ数年、マリ北部地域では、イスラム過激派の進出で、難民化する住民が増加している。皮肉なことに、かつての内戦時と同じ状況が生まれつつある。緑が復活しても住民が不在では何の意味もないのだが。

## 女性にとっての実践者とは？

この3年間、里山を再生していく実践者を周りの村人たちに広げていこうと新実践者を選抜してきました。その候補者の多くが男性です。女性は常に家族のために炊事、洗濯、子供の面倒など働きづめで忙しく、木を育てることに時間を回すのが難しいことも一つの要因です。そんな女性たちの中でも、木を育てるのが好きな女性を何人か候補者として迎えています。今回は彼女たちについて紹介します。

榎本 肇

### 薬となる木を知る女性

#### —マミネ・ジャキテ(ニャンコロブゲー村)

マリでは今でも伝統薬による民間療法が行われています。バマコの病院に行き西洋医学をもってしても治らなかった病気が、ある村の有名な伝統療法師が伝統薬を用いた施術を施したところ治ったという話も聞きます。



樹木の葉を伝統薬として調整する伝統療法師

一方、こうした伝統薬を、里山の樹木から採取して乾燥し、市場などで売る人たちがいます。それが今回紹介するマミネ・ジャキテさんです。

彼女は、どの木のどの部位が〇〇の病気に効くという知識を持っていて、里山にある樹木から生薬を作ります。

【伝統療法師】バンバラ語でファラフィンフラ・ボラ：「アフリカ人の薬の人」の意

【伝統薬を市場などで売る人】バンバラ語でファラフィンフラ・フェレラ：「アフリカ人の薬を売る人」の意

ある薬は葉から、ある薬は樹皮から、ある薬は根からといった具合です。こうして採ってきた葉や根を乾燥させて、小さく縛り、商品とします。

それらを首都のバマコにある専門の市場にまで持って行き、数日滞在して自分で売っているのです。

マミネさんはどのようにして伝統薬の知識を得たのでしょうか？

ファナに住む老婆が彼女の村の裏にある森に伝統薬の材料を採りに来ていて、彼女の傍らにいてその知識を吸収していたのです。

マミネさんは頻繁にバマコに薬を売りに行ってしまうので、実践者としての活動はできないかと思いますが、里山の樹木を知る女性としてこれからも会として関わっていければと思います。



マネミ本人が不在の時には嫁が代わりに植樹

## バオバブを拾う女性

—カジャ・クリバリ（バジャブグー村）

女性が持つ農園では、日々の食事を使用する、タマネギやトウガラシ、トマトやナスなどの野菜を栽培しています。そのような農園には葉がソースの材料になるバオバブも育てられ、これまでサヘル  
の森は女性のために農園に植える苗木を配布してきました。カジャさんの農園にはサヘル  
の森の配布した苗の他にも何本もの小さなバオバブの木が育っています。



農園の中に育つバオバブ

バオバブの実、種の周りについている白い果肉の部分の水に溶かしてジュースにします。その際、果肉をとった後には多量の種が出ます。種は使用されることがないので、ごみと一緒に家の脇のゴミ捨て場に捨てられます。



バオバブの実と白い果肉

雨期になるとゴミ捨て場には発芽した多くの実生が生えます。カジャさんは、この実生を大事に拾ってきて、自分の農園に植えて育てているのです。

## 女性が木を育てる意味

これまでサヘル  
の森は、男性には材となるユーカリやカイセドラ、女性には食用となるバオバブや果樹と性差によって配布苗を変えてきました。

女性は食事の支度をしており、その食材となるバオバブを自分たちでもっと増やしていけば、今食事を使用しているバオバブの葉への出費分を浮かせることができると思ったからです。実践者を育てる際にも、女性の候補者にバオバブの苗を育ててもらい、女性たちに配布したらどうかと考えていましたが、商売のために不在がちであったり、家畜の被害を受けてしまったりして実現しませんでした。

最近では女性たちの中にもユーカリの苗を欲しが  
る人たちが増えてきて、必ずしも性差によって配布する苗を変えずとも良いか  
と考えるようになりました。

日々使う薪を得るのも難しくなってきた今日、自分が植えた木を売って収入を得て、残った枝で煮炊きをする時  
もすぐそこまで来ているのかもしれない。



ユーカリ材販売後の残り枝は薪炭材として利用

### ■日本人の派遣は断念

マリの治安状況から、今年度の日本人派遣は断念しました。外務省が公表している海外安全情報によると、マリ共和国の首都バマコが「レベル3（渡航中止勧告）」であり、ファナを含む首都以外の全地域は「レベル4（退避勧告）」となっています。

- 首都バマコ→レベル3：渡航はやめて下さい。
- 首都バマコを除く上記以外の地域→レベル4：退避して下さい。渡航はやめて下さい。

フランス軍に続いて国連による平和維持軍（国連マリ多方面統合安定化ミッション）も2023年6月末で終了し、各地で撤退が進んでいるため、現在はマリ国軍とイスラム過激派との戦闘が続いています。新聞報道によれば、マリ国軍は北部の要衝であるキダールを奪還したとのことですが、隣国ブルキナファソとの国境付近では依然、襲撃事件が発生しています。9月に連絡船が攻撃されたトンブクトゥも包囲された状況にあるようです。

現在活動しているファナ周辺に関しては、イスラム過激派による襲撃等の情報はありませんが、国道沿いであっても武装強盗の出没が危惧されるため油断はできません。

### ■ブラジュ村襲撃事件

2023年6月に「カラ西アフリカ農村自立協力会」の活動地・ブラジュ村がイスラム過激派に襲撃され、村長と建設作業員が殺害されるという衝撃的な事件が発生しました。ブラジュ村では、産院・診療所の建設が始まったばかりでした。

村上一枝さんが代表を務める「カラ西アフリカ農村自立協力会」は、マリの農村部で水資源の確保、保険衛生知識普及、女性の生活改善など多方面に渡って活動中の団体です。ブラジュ村の位置するクリコロ県は、首都バマコの北東側に当たり、バマコからの距離では100キロ前後とファナと同じような場所になります。

村上さんのご厚意で事件のあらましを以下に引用させていただきました。

「ムラカミ、ブラジュ村で建設中の産院が破壊された、マソン（左官）もドゥグチギ（村長）も殺された」。

2023年6月12日、カラのマリ・バマコ事務所のスタッフ、ラミン・ジャワラからこのような電話が入りました。それはいつもの元気な声とは違い、誰？と聞き返すほど沈んでいました。なぜ？誰に？と聞き返すと「真夜中にイスラム過激派がブラジュ村を襲撃した。バマコ市も非常に危険で町から出られず、ブラジュ村へ行くこともできない」と、耳を疑うような報告でした。

（中略）イスラム過激派は「モスク（イスラム教の寺院）以外は建設してはダメだ」と言います。彼らが病気になったら盗んだ薬剤を使用するのだろうか？

【2022年度カラ事業報告書】より抜粋

## ■バマコのトラオレさん

治安の関係で日本人不在の中、マリでの活動はどうしているのでしょうか？

ファナの実践者たちや地域苗畑は各自で日々の作業を進めています。新実践者への技術指導や地域苗畑への資材提供などは、バマコのトラオレさんが現地に出向いて行っています。そのトラオレさんには、日本の榎本さんが作業計画書という形で指示を出して動いてもらっています。合わせて、出張費用とトラオレさんの手当も支給されています。一連の現地出張が終われば、レポートにして日本まで届けられます。





当会でチャンガラが取り上げられたのは、薪炭を利用する村人から、チャンガラがなくなってきたので増やせないかという話があったことと記憶している。チャンガラの薪は煙が少なく使いやすい、炭は火力があるなどということだった。

チャンガラはシクンシ科シクンシ属の低木である。樹高は、大きく生育すれば10m以上になると図鑑にあるが、そのような大きなものは見たことがない。

幹線道路から離れた奥の樹林地でも3~4mであり、数は少ない。切られたためか、萌芽して株状になっているものが多い。枝葉は多く、葉は大きくつやがある。

ファナ地域の村の周りの里山林でチャンガラは、いろいろな樹木とともに生育している。ここでは日常の薪炭材採取のため伐採と萌芽が繰り返されており、2~3mになると伐採されて使われている。樹木は長期間にわたる繰り返しの伐採利用でかなり減少した。

萌芽した若い樹木は、種子ができる前に再び切られており、チャンガラは種子の入手ができてにくい。

種子は乾季にできるので、スタッフのトラオレさんに頼んで集めてもらった。多い時には大きな袋に20Lぐらい集めてくれた。種子は、長さ2cmぐらいで4つの翼がでている。

雨季にマリを訪れて、その種子で苗木を作ろうとしたが、大部分が虫に食われていた。種子には小さな穴があいており、全滅状態であった。

ファナの試験地では、裸地の部分に天然更新のチャンガラがぼつぼつと芽吹いていたが、表土が薄く生育が悪い。在来種は食害をする敵も多く、育苗は容易でない。とりあえず目印をして、生育を調べる試験などをした。

また、裸地の部分に溝を掘り、土を盛り上げて、そこにチャンガラを播種する試験を2019年の夏に行った。その後この幹線道路沿いにあった試験地は売却されてしまい、新しい試験地は奥の村の隣接地に開設された。

チャンガラは、優良な薪炭材であるばかりでなく、マリの泥染めの材料や皮なめしの材料としても利用されており、安定的な育成生産が期待されている。

(坂場光雄)



## 中央大学附属横浜中学校 特別授業

10/3、横浜市都筑区にある中央大学附属横浜中学校へ特別授業に行ってきました

中大附属横浜中は中高一貫校で、サヘル  
の森の監事である柴泰登さんのお勤めの  
学校です。

今回の特別授業は中学 3 年生の道徳授  
業の一環で、テーマは『『将来の道』をど  
のように探すのか』でした。企業の社員や  
中大の学生を招いて行われてきた将来の  
道に関する授業で、私は、マリヤサヘル  
の森の活動を紹介しながら、自分がどの  
様に『将来の道』を見出したのかを話し  
ました。

今は国際協力と言えば文系の「国際協  
力学部」を考えるのが一般的ということで、  
私の場合は異色ではありましたが理系で  
も国際協力への道がある一例としてお話  
しました。

今どきの学校は生徒さん（200 名弱）が  
各自 PC を持っており、「自分の『将来の道』  
はどのように見つかるのか」という発問に、  
私の話を聞いてから、ICT 技術を使って回  
答するには驚きました。その回答はすぐ  
さま PC 上で確認でき、2~3 の回答を拾い  
上げて、私がコメントするというスタイル  
でした。

私の話が学生の時のサヘルとの出会い  
をしたこともあり、関心のあることに積極  
的に体験してみたり、視野を広く持って将  
来の道を探っていきたいなどの回答が多  
かった印象でした。

今回の私の授業で、少しでも生徒の皆  
さんの『将来の道』を探す助けになり、国  
際協力の道に進む生徒さんが増えたらう  
れしいです。

(榎本肇)

## 定例活動(7月~11月)

会員交流や植物観察などを目的に、毎  
月第 3 土曜日（一部日曜日）に前代表の  
坂場さんと散策する「ぶらさかば」を行  
っています。

散策の様子は、ホームページのスタッ  
フブログに掲載中ですのでご覧ください。

- 7/15 日野ふるさと歴史館と黒川清流公園  
\* 日野から平山城址公園まで、宿場町と  
して栄えた日野の歴史を学びながら黒  
川段丘崖線の緑地を歩きました。
- 9/16 桐ヶ丘中央公園と旧中山道  
\* 残暑のなか赤羽から高島平まで、武蔵  
野台地の斜面緑地と旧中山道をたどり  
ました。
- 10/22 大倉運動公園と砧公園  
\* 成城学園前から豪徳寺まで、仙川に沿  
って住宅地を進み台地上の砧公園を訪  
れました。
- 11/19 東京臨海広域防災公園と埋立地  
\* 国際展示場から東京テレポートまで、  
防災公園での体験と埋立地の緑地な  
どをめぐるしました。

## JICA 地球ひろば 写真展

千葉支部主催の写真展を 9/5~18 に  
「JICA 地球ひろば」で開催しました。  
関係者のほか、研修等で会場にいらし  
た方々にも見ていただけたようです。  
地球広場スタッフの皆様には大変お世  
話になりました。感謝申し上げます。



## 写真展を開催します

サヘルの森千葉支部の主催で、写真展を開催します。運営委員の上田隆さんが撮影したマリ共和国 GOSSI 村の風景写真を、JICA プラザよこはまの2階回廊展示スペースをお借りしてご紹介します。

砂漠の国とは思えない湖の景観や村の暮らしを切り取った写真展です。お近くの方は、ぜひお越し下さい。

注) なお、展示内容は9月にJICA地球ひろばで行ったものと同一となります。

### マリの美しい村ーゴッシ (GOSSI) 上田隆 写真展

日時: 2024年1月26日(金)~2月28日(水)

開場時間: 10時~18時 入館無料  
(入館は17時30分まで)

場所: JICA プラザ よこはま  
2階回廊 展示スペース

住所: 神奈川県横浜市新港 2-3-1  
最寄り駅: JR 根岸線「桜木町駅」、  
みなのみらい線「馬車道駅」から  
徒歩15分

## サヘルの森会員総会のご案内

総会の日時が下記のように決まりました。

日時: 2024年3月17日(日)  
14:00~16:00

場所: JICA 地球ひろば2階  
セミナールーム 201AB

住所: 東京都新宿区市谷本村町 10-5  
(JICA 市ヶ谷ビル内)

最寄り駅: JR 中央線・総武線「市ヶ谷駅」、  
東京メトロ・都営地下鉄「市ヶ谷駅」  
から徒歩10分

詳細は、2月末発行の総会資料に掲載しますので、ご確認下さい。

## クリスマス募金のお願い

世界各地で頻発する戦争・紛争の終息と平穏な日常の再開を願ってクリスマス募金へのご協力をお願いします。

厳しい環境の中でも地道に努力を続けている実践者と新実践者の活動状況をお伝えしたいと思います。

募金には、同封の振込用紙をご利用下さい。

## 振込用紙ご記入時のお願い

会費やご寄付でお振込み頂く際、振込用紙に領収書の要・不要を必ずご記入ください。

尚、サヘルの森は寄付等による所得控除の対象になりません。

ご協力のほど、よろしく申し上げます。

### 会費納入にご協力ください

NPO 法人『サヘルの森』はサハラ砂漠の南縁サヘル地域において植林活動を行う市民団体です。会員には機関誌『サヘル』が届きます。お申し込みは、郵便振替で下記の口座に会費をお振込みください。

- ・一般会員 年 5,000 円
- ・維持会員 年 20,000 円

### 特定非営利活動法人 サヘルの森

住所: 〒194-0013  
東京都町田市原町田 1-2-3-403  
TEL: 042-721-1601 (留守電対応)  
郵便振替口座: 00170-6-115054

HP: <http://www.jca.apc.org/sahel-no-mori/>  
BLOG: <http://sahelnomor.exblog.jp/>  
E-mail: [sahel-no-mori@jca.apc.org](mailto:sahel-no-mori@jca.apc.org)

\*\*\*\*\*  
機関誌『サヘル』No.113 2023年12月20日発行  
発行人/編集: 高津佳史  
\*\*\*\*\*